

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 電話 052-261-1781(代表)
郵便物送付先 お問合せ先	〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 ☎0120-707-843
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 <a href="http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html">http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html</a> ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

## ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。



# KANEFUSA

株主・投資家の皆様へ

## 第62期 報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

- ① 株主の皆様へ
- ③ グローバル展開の拡充
- ⑤ Special Issue  
兼房のフィールド：非住宅関連分野 / 最先端技術
- ⑦ Topics/新製品情報
- ⑨ 営業の概況
- ⑪ 連結財務諸表  
・連結貸借対照表  
・連結損益計算書  
・連結キャッシュ・フロー計算書  
・連結株主資本等変動計算書
- ⑬ 単体財務諸表  
・貸借対照表  
・損益計算書  
・株主資本等変動計算書
- ⑭ Information  
・会社概要  
・役員  
・株式の状況

免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただきますようお願いいたします。

株主の皆様へ



取締役社長  
渡邊 将人

## 刃物のプロ集団として、 真のグローバル企業への 進化を目指します。

### Q 2010年3月期の業績と今後の見通しについてお聞かせください。

世界的な経済の冷え込みを背景に、去年の秋頃までは、暗中模索の状況が続きました。ようやく回復基調がはっきり数字に反映されてきたのは、今年1月に入ってから。特に、今年3月以降は順調に回復傾向にあります。2010年3月期としては、上半期の落ち込みをカバーするには至らず、減収減益で、赤字決算となりました。外部要因の大きさに翻弄されてしまった1年でしたが、社内では業務効率化・コストダウン施策の効果が見えはじめました。中国を中心とした景気の回復基調を追い風に、この勢いを2011年3月期につなげていくべく、一層の努力を重ねていきたいと考えています。

### Q 国内外・エリア別の状況についてはいかがでしょうか？

まずアジア地域に関してですが、中国は日本向けの売上が減少、インドネシアは合板用刃物や製紙用刃物の減少により、ともに減収減益となりました。しかし、1月以降は急速に持ち直し、現在はそれぞれフル稼働の状態です。特にインドネシアは主力を製紙用刃物にシフトしたことが功を奏して、地元企業からの大量受注を実現しました。インドネシアは設立から20余年ということもあり、現地採用の製造・営業ス

タッフが会社を牽引してくれているという実感があります。中国は設立して間もないことから、まだ試行錯誤の段階ではありますが、現地スタッフのバイタリティには手ごたえを感じています。先日もヨーロッパの展示会で声をかけていただいた中国機械メーカーのトップが、現地の工場を視察され、「この工場なら信頼できる」と、社員の研修を依頼されるなど、現地で新しい信頼関係も生まれはじめています。

欧米を見ますと、米国に関しても、前期は売上、利益ともに減少しましたが、自動車関連分野の回復は日本より早いのではないかと感じています。危機的な状況乗り越えることで、現地販売会社と本社の一体感が生まれて、ようやく軌道に乗りはじめた感じがします。景気低迷の影響を最も強く受けたのはヨーロッパで、売上は、一時的に前年同期比8割減となりました。準備を進めてきた機械メーカーへのOEM供給など大型案件がストップするなど、厳しい1年でしたが、こちらも徐々に回復の兆しを見せてきています。

BRICsについては、インドで再研磨市場に照準をあてた販売子会社が好調に立ち上がり、早期に増員が必要な状況です。またブラジルに関しては、子会社を設立し、営業の準備を進めておりますが、中期的には生産工場を建設し、現地生産を開始する計画であります。

最後に国内ですが、ここ数年「非住宅関連市場の開拓」を命題としていますが、自動車関連、鉄鋼関係、IT関連等々それぞれのマーケットに営業展開を強化してきましたが、数字的には苦戦を強いられました。どの市場にも工業用刃物の需要は確実にあるので、今後の営業活動としては、これまでの経験を活用したアプリケーション・エンジニアリングや、お客様の工場をトータルで見た改善提案、新しいラインのデザイン提案など、当社ならではの豊富なノウハウに裏打ちされた提案営業を強化し、それぞれのマーケットでのシェア拡大を目指していきます。

### Q 今年4月に企業理念を改訂されましたが、その狙いと今後の展望についてお聞かせください。

この数年、中期経営計画を通じて事業部制やグローバル化を進めてきました。特にグローバル化に関しては、それぞれの地域でマーケットを拡大するだけでなく、必要なときに必要なものを供給できる世界分業体制を作ってきました。しかし、体制を整えるだけでは、真のグローバル化は達成できません。「カネフサは他社とは違う」「さすがカネフサだ」、というお客様からの信頼を勝ち取っていくためには、社員一人一人が「自分はプロだ」と言い切れる自信を持ち、プロフェッショナルな仕事をやりぬくことが必要です。そんな思いから、新しい企業理念は、社員がプロジェクトを組んで自らの言葉で作り上げました。

新しい企業理念の実現を目指し、株主の皆様にもご納得いただける結果を出すため、全社一丸となって頑張っておりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

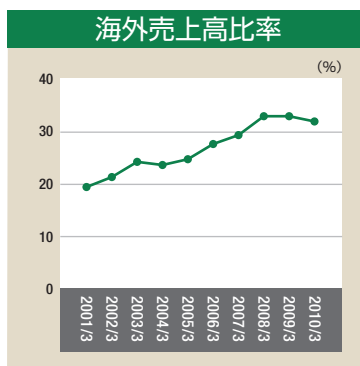
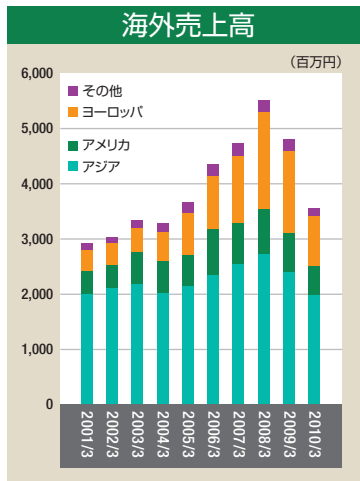
**企業理念** 私たちは、一人一人がプロフェッショナルとして、刃物の先を見つめ、新しい価値を創造し、世界のものづくりに貢献します。

- 基本方針**
1. 私たちは、お客様の視点に立ち、信頼される技術とサービスを提供します。
  2. 私たちは、わが社にしかできない、世界に通用する仕事に挑戦します。
  3. 私たちは、共に働く仲間を尊重し、力を合せ、誇りを持てる会社を目指します。

## 生き残り新たな成長を目指し 「グローバル化」から「真のグローバル企業」へ

「世界ナンバーワンの刃物づくり」が自他共に認められるために  
カネフサはこれからも挑戦し続けます。

海外進出の沿革	
1986年	インドネシアに生産販売子会社 「P.T.カネフサインドネシア」設立 シンガポール駐在員事務所開設
1996年	「P.T.カネフサインドネシア」工場移転
1998年	オランダに欧州駐在員事務所開設
1999年	米国に販売子会社「カネフサUSA INC.」設立
2000年	「P.T.カネフサインドネシア」第二工場完成
2001年	欧州駐在員事務所を現地法人化し、 販売子会社「カネフサヨーロッパ B.V.」設立
2002年	中国に生産子会社 「昆山兼房高科技刀具有限公司」設立
2003年	中国に販売・再研磨サービス子会社 「昆山兼房精密刀具有限公司」設立 シンガポール駐在員事務所閉鎖、 マレーシア駐在員事務所開設
2005年	「P.T.カネフサインドネシア」第三工場完成
2008年	「昆山兼房高科技刀具有限公司」第二工場完成
2009年	インドに販売・再研磨サービス子会社 「カネフサインドネシア Pvt. Ltd.」設立
2010年	ブラジルに販売子会社 「カネフサドブラジル LTDA」設立



社名	カネフサヨーロッパ B.V.	
住所	De Witbogt 12, 5652 AG, Eindhoven, The Netherlands	
資本金	EUR 1,000,000	
従業員数	14名	



社名	昆山兼房高科技刀具有限公司	昆山兼房精密刀具有限公司
住所	江蘇省昆山経済技術開発区東部工業区珠竹路50号	
資本金	US\$ 5,600,000	US\$ 800,000
従業員数	134名	34名



社名	P.T. カネフサインドネシア	
住所	EJIP Industrial Park, Plot 8D, Cikarang Selatan, Bekasi 17550, West Java, Indonesia	
資本金	US\$ 6,400,000	
従業員数	234名	



社名	カネフサインドネシア Pvt. Ltd.	
住所	Plot No.232, Sector-8, IMT Manesar, Gurgaon, Haryana India	
資本金	INR 5,000,000	
従業員数	6名	



社名	カネフサ USA INC.	
住所	2762 Circleport Drive, Erlanger, Kentucky 41018, USA	
資本金	US\$ 1,400,000	
従業員数	12名	



社名	カネフサドブラジル LTDA	
住所	Rua Joaquim de Almeida, 75, Mirandópolis, Sao Paulo, SP, Brasil	
資本金	R\$ 602,731	
従業員数	-	



## 非住宅関連分野の 拡大

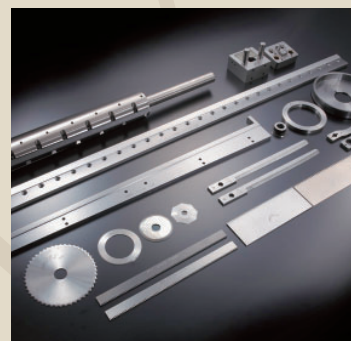
非住宅関連分野に関しては、自動車、製本紙工、包装機械関連分野などの既存市場に加えて、IT関連や携帯電話、液晶・プラズマパネルなど、新たな分野への拡大を図っています。こうした市場を先取りするべく、独自のネットワークを通じての開拓を行っています。



### 鉄鋼・非鉄金属加工用

製品名 ●コールドソー 等

合金鋼、ステンレス、銅、アルミニウム、難切削材等の各金属の切断に抜群の耐久性で精密加工が可能。



### 包装機械用

製品名 ●圧力切断刃  
●突刺刃 等

せん断、突刺、圧力切断、型抜き等の各用途に応じ、形状・材質等カスタマイズを行い、長寿命と高精度を提供。



### 製本紙工用

製品名 ●断裁包丁  
●三方断裁 等

製本、紙工工程で使用されるあらゆる刃物を取り揃え、熱処理および接着などの独自技術により耐久性の高い刃物を提供。



### 製紙用

製品名 ●チップナーナイフ 等

最適な材質と高度な独自の熱処理を施すことにより、製紙パルプ用等として、それぞれの切削条件に対応した刃物を提供。



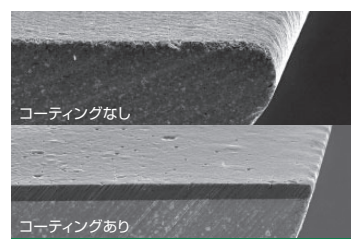
### 樹脂加工用

製品名 ●アクリルエンドミル 等

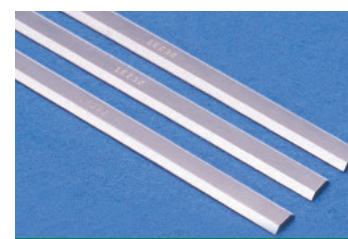
アクリル、塩化ビニール、その他樹脂の切断や成型加工に適応する刃物を取り揃え、美しい切削面を提供。

## 環境に配慮した最先端技術

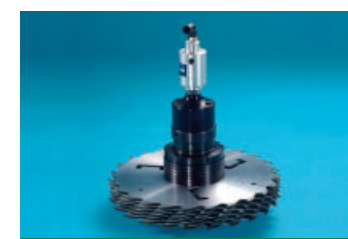
伝統の鍛冶技術と最新の加工技術を融合させ、環境にやさしい製品を生み出す。世界に認められた独自技術で、カネフサならではのエコロジーを実現しています。



消費電力削減を可能とした  
**コーティング技術**



レアメタル使用量削減を可能とした  
**微細化技術**



歩留まり向上を可能とした  
**薄鋸化技術**



切削騒音の低減を可能とした  
**静音化技術**

## 第39回名古屋国際木工機械展

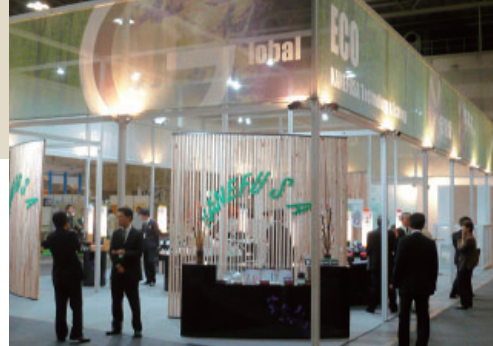
2009年10月28日~31日(ポートメッセなごや)

第39回名古屋国際木工機械展/ウッドエコテック2009が「ポートメッセなごや」で開催されました。日本を代表する同展は、木工機械メーカーが主催する



唯一の専門見本市ですが、不況が直撃した今回は、入場者数も半減しました。そうした中、日本が『温室効果ガス25%削減』を表明したこともあり、ますます木材加工の果たす役割が大きくなってきました。各メーカーもその環境をチャンスに変えようとする動きが多く見られました。カネフサではテーマを『KANEFUSA、Technology & Ecology』として、出品テーマを ①省資源:レアメタルの有効活用 ②材料の有

効活用:歩留りの向上 ③低騒音:作業環境の改善 ④消費電力の低減:負荷電力低減を掲げ、エコロジーを強調した装飾と製品展示を行いました。展示会のハイライトである技術優秀賞にエントリーした『ミスト噴霧用スプリッティングソーイングシステム』が歩留り向上などを評価され6期連続受賞となる偉業を達成し、改めて『技術のカネフサ』をアピールする事ができました。



## EMO展

2009年10月5日~10日(イタリア・ミラノ)

金属加工と工作機械分野で世界最大の見本市であるEMO展が、イタリアのミラノで開催されました。同展示会は世界中の製造技術分野のリーディングカ



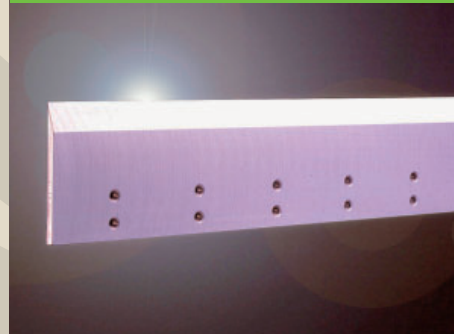
ンパニーが出展し、業界では不可欠な存在となっていますが、今回は世界的な経済不況の影響で出展者・来訪者が少ない展示会となる事が予想されました。しかし、不況下でも将来を見据え苦しい時に果敢に挑戦する事で未来が開けるとの考えで当社は出展を決定し、各種金属切断用丸鋸やダイヤモンド刃物製品他を展示し、“SPEED FACTOR”(高速&高寿命)、“ECO FACTOR”(省エネ化)をアピールしました。展示会自体は寂しい



ものとなりましたが、逆に来訪者の接客や各機械メーカーとの打合せ時間を取る事ができ、新しいコンタクトが生まれました。これまで開拓が遅れていた南アフリカ、スロベニア、ルーマニア等からぜひ取引をしたいとのアプローチがあり、カネフサブランドが同地域にも広がっている事を確認できました。

# New Products Information

新製品情報



## 001 高速度鋼製断裁包丁 スプレnderプラス

- [特徴] 刃先を高硬度・高韌性の高合金高速度鋼とし、刃金を特性の異なる三層構造にすることで、長寿命と再研磨時の研削性を高めた製品です。
- [用途] アートコート紙等の塗工紙の断裁加工



## 002 金属切断用丸鋸 Ferro Max Titan

- [特徴] 航空機、医療、自動車産業で利用が拡大しているチタン合金の切断用刃物として開発しました。刃先形状やコーティング膜質などを最適化することにより、高速切断および長寿命化を可能にした製品です。
- [用途] チタン合金の切断



## 概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、一昨年秋の世界的な金融危機の影響を受けて急激に悪化した状況から、政府の景気対策の効果や輸出の一部回復などにより、景気は最悪期を脱し、持ち直し感が強まってまいりました。しかしながら、国内需要の先行きは未だ不透明であり、雇用情勢は依然として厳しい状況で推移いたしました。一方、世界経済は、地域差はあるものの最悪期を脱し、アジアが全体を牽引する形で景気回復の動きとなりました。

当社製品と関連の深い国内住宅関連産業におきましては、雇用情勢や個人所得の先行き不安から、住宅を買い控える傾向が依然として続き、新設住宅着工数は大きく落ち込み、たいへん厳しい状況で推移いたしました。また、自動車関連産業におきましては、

各国の景気対策や中国、インドなどの需要増加に加え、米国、欧州での過剰在庫の一扫などにより、生産は回復しつつあります。

このような状況のもと、当社グループは継続的に新製品を市場に投入するとともに、総力を挙げて受注確保のための営業活動に注力いたしました。

## 売上高

第3四半期以降、金属切断用丸鋸、木工関連丸鋸などの売上が増加いたしました。第2四半期までの売上減少の影響が大きく、当連結会計年度における売上高は114億8百万円（前年同期比21.7%減）となりました。

## 経常損失

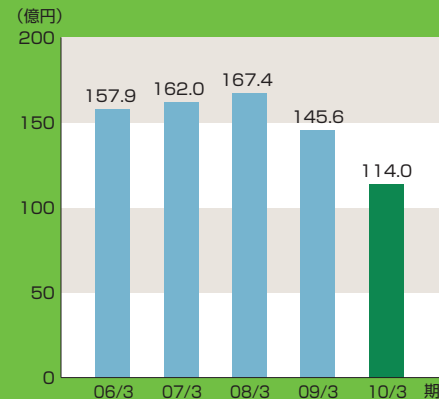
利益面につきましては、全社一斉休業の実施や人件費・製造経費・販売管理費の削減および設備投資の抑制等、経費削減に努めましたが、売上高の減少による固定費負担が大きく、営業損失4億1千5百万円（前年同期は4億3千9百万円の営業利益）となりました。営業外損益では、為替差損6千3百万円を計上したものの助成金収入1億1千万円を計上し、経常損失3億4千7百万円（前年同期は5億8千7百万円の経常利益）となりました。また、特別損益では、当社旧東京支社の土地・建物等の売却により固定資産売却益2億9百万円を計上し、当期純損失1億1千4百万円（前年同期は1億9千4百万円の当期純利益）となりました。

## 来期の見通し

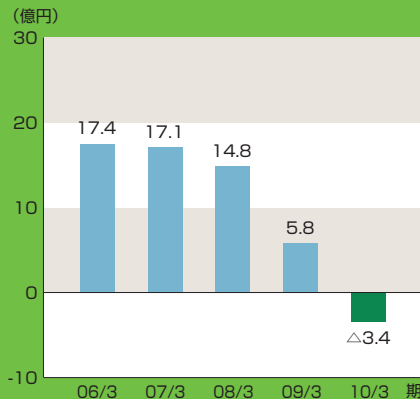
今後の経済見通しにつきましては、世界経済は各国の景気が底入れし着実な回復が見込まれ、わが国においても、輸出を起点とした生産の増加など、景気の回復基調は継続していくものと予想されます。

このような状況の中で、さらなる販売体制の強化、新製品の開発、新分野・新市場の開拓、収益体質の改善に全力を挙げて取り組むことにより、売上高は138億3千万円、営業利益8億4千万円、経常利益8億4千万円、当期純利益5億円を見込んでおります。

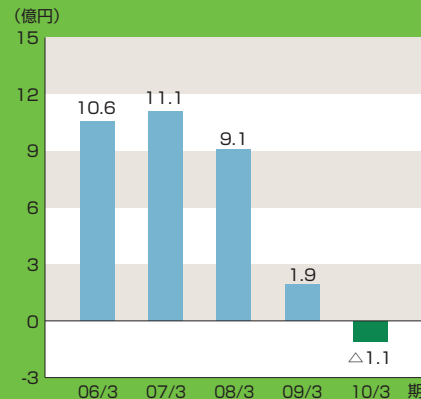
### 売上高



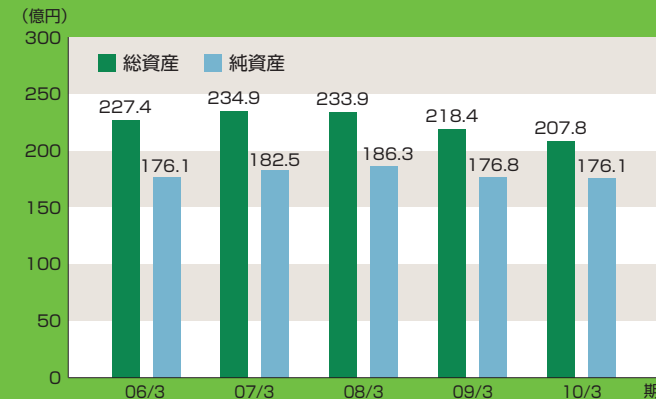
### 経常利益又は経常損失(△)



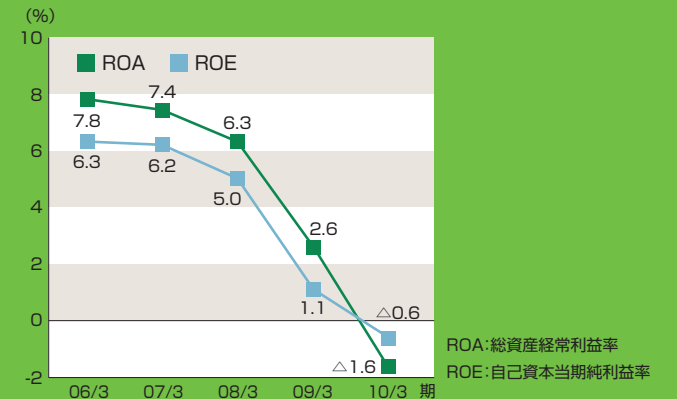
### 当期純利益又は当期純損失(△)



### 総資産・純資産



### ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率  
ROE:自己資本当期純利益率

# 連結財務諸表

## 流動資産

前期末と比べ2千5百万円減少し、111億9百万円となりました。これは主に、現金及び預金が3億7千万円増加しましたが、原材料及び貯蔵品が3億9千7百万円減少したことなどによるものです。

## 固定資産

前期末と比べ10億3千4百万円減少し、96億7千6百万円となりました。これは主に、機械装置及び運搬具が4億2千7百万円減少、繰延税金資産が1億7千6百万円減少したことなどによるものです。

## 売上高

住宅、自動車市場の低迷で主力の住宅関連用刃物、金属切断用丸鋸の販売が国内外ともに大きく落ち込み、前期より31億5千8百万円減少し、114億円となりました。

## 連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成22年3月31日現在	前期 平成21年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	11,109,675	11,135,504
固定資産	9,676,544	10,710,856
<b>資産合計</b>	<b>20,786,220</b>	<b>21,846,361</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	2,337,136	2,868,834
固定負債	837,045	1,292,724
<b>負債合計</b>	<b>3,174,181</b>	<b>4,161,558</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	17,592,000	17,880,094
評価・換算差額等	20,038	△195,292
<b>純資産合計</b>	<b>17,612,038</b>	<b>17,684,802</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>20,786,220</b>	<b>21,846,361</b>

## 連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	前期 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	11,408,217	14,566,960
売上原価	8,223,192	9,834,666
売上総利益	3,185,025	4,732,294
販売費及び一般管理費	3,600,540	4,292,600
営業利益又は営業損失(△)	△415,515	439,693
営業外収益	159,449	185,922
営業外費用	91,474	38,126
経常利益又は経常損失(△)	△347,539	587,489
特別利益	280,368	65,750
特別損失	91,837	187,372
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△159,008	465,866
法人税、住民税及び事業税	62,688	123,025
法人税等調整額	△107,431	147,912
当期純利益又は当期純損失(△)	△114,265	194,928

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	前期 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	866,684	1,370,081
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,550	△2,421,079
財務活動によるキャッシュ・フロー	△192,243	△296,478
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,854	△127,700
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	670,138	△1,475,175
現金及び現金同等物の期首残高	2,444,886	3,920,062
現金及び現金同等物の期末残高	3,115,024	2,444,886

## 連結株主資本等変動計算書(要旨) 当期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
<b>平成21年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,777,998	△208,293	17,880,094	78,576	△273,869	△195,292	17,684,802
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△173,761		△173,761				△173,761
当期純損失			△114,265		△114,265				△114,265
自己株式の取得				△67	△67				△67
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						73,318	142,013	215,331	215,331
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	-	-	△288,027	△67	△288,094	73,318	142,013	215,331	△72,763
<b>平成22年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,489,971	△208,361	17,592,000	151,894	△131,856	20,038	17,612,038

# 単体財務諸表

## 貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成22年3月31日現在	前期 平成21年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	9,821,931	9,911,037
固定資産	10,384,865	11,507,593
<b>資産合計</b>	<b>20,206,797</b>	<b>21,418,631</b>
(負債の部)		
流動負債	2,304,029	2,762,573
固定負債	823,740	1,281,788
<b>負債合計</b>	<b>3,127,770</b>	<b>4,044,361</b>
(純資産の部)		
株主資本	16,927,132	17,295,693
評価・換算差額等	151,894	78,576
<b>純資産合計</b>	<b>17,079,027</b>	<b>17,374,270</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>20,206,797</b>	<b>21,418,631</b>

## 損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	
	当期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	前期 平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	10,294,492	13,208,318
売上原価	7,891,923	9,453,733
売上総利益	2,402,569	3,754,585
販売費及び一般管理費	2,986,109	3,611,223
営業利益又は営業損失(△)	△583,539	143,361
営業外収益	186,757	101,497
営業外費用	90,785	149,910
経常利益又は経常損失(△)	△487,567	94,949
特別利益	280,635	65,242
特別損失	91,797	191,145
税引前当期純損失(△)	△298,729	△30,953
法人税、住民税及び事業税	13,121	24,674
法人税等調整額	△117,119	56,815
当期純損失(△)	△194,731	△112,444

## 株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

単位:千円

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
<b>平成21年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	13,193,596	△208,293	17,295,693	78,576	17,374,270
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△173,761		△173,761		△173,761
当期純損失			△194,731		△194,731		△194,731
自己株式の取得				△67	△67		△67
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						73,318	73,318
<b>事業年度中の変動額合計</b>	-	-	△368,493	△67	△368,560	73,318	△295,242
<b>平成22年3月31日残高</b>	2,142,500	2,167,890	12,825,103	△208,361	16,927,132	151,894	17,079,027

# Information

## 会社概要

(平成22年3月31日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	580名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資および技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 福岡 広島 仙台 海外駐在員事務所 マレーシア
子会社	P.T.カネフサインドネシア カネフサUSA INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 昆山兼房精密刀具有限公司 カネフサインディア Pvt. Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA 大口サービス株式会社

## 役員

(平成22年6月24日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	藤吉 芳久
専務取締役	太田 正志	取締役	富田 律男
常務取締役	稲葉 公男	取締役	春日 晃
常務取締役	平子 哲朗	取締役	萬谷 哲朗
常務取締役	西尾 悟	常勤監査役	柳瀬 敏行
		監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

## 株式の状況

(平成22年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	1,786名

## 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,190	8.5
太田 万佐子	1,151	8.2
兼房従業員持株会	881	6.3
渡邊 美奈子	865	6.2
渡邊 浩	763	5.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	492	3.5
渡邊 将人	414	2.9
太田 正志	386	2.7
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況

